

令和三年度 九州歯科大学歯学部 大学院入学式

歯学科第七三回、口腔保健学科一二回、大学院第五六回 入学式

式辞

本日、希望に満ちあふれる新入生の皆さんを九州歯科大学に迎えることができ、この上もない喜びを感じております。歯学部歯学科、口腔保健学科及び大学院歯学研究科に入学した皆さんに対して、九州歯科大学の教職員を代表して、ようこそ九州歯科大学へという歓迎の言葉を贈ります。

本日、ここに、福岡県知事職務代理者大曲昭恵（おおまがり あきえ）副知事及び吉松源昭（よしまつ もとあき）福岡県議会議長のご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。一方、各界からご来賓ならびに保護者のご臨席を賜る予定でしたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の現況を鑑み、来賓各位ならびに保護者の皆様には、ご臨席のご案内を控えさせていただきました。COVID-19 禍中、我が国において定着した「新たな生活様式」のもとで「密閉、密集、密接」、いわゆる3密回避に重きをおいた対応ということをご理解い

ただければ幸いです。

九州歯科大学は、我が国において29の歯科部を有する大学の中で、唯一の公立大学として、107年という長い歴史と伝統、ならびに輝かしい実績を持って、歯学教育及び歯科医療の発展に大きく貢献してまいりました。九州歯科大学は、平成18年に公立大学法人として新たな道を歩み始め、その後、大学改革を進めていくなかで、平成27年度に九州歯科大学憲章を制定し、次世代を担う歯科医療人の育成に向けて、これまでの三つの基本理念に加え、六つの教育研究目標を掲げ、実践的な歯科医療人の育成活動を展開してきました。この憲章の前文には、「平成26年の創立百周年を機に九州歯科大学は、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療が提供できる人材の育成を第一義に掲げ、学生、教員、職員の三者が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指します」と謳いあげています。

このような考え方のもとで教育を受け、実践的な歯科医療人として、患者本位の診療が行える人材として社会に巣立つことができるよう教職員一丸となって取り組むことをあらためてお約束します。

その一方で、教職員を代表して、本日、入学する学部及び大学院の新入生諸君に対して、我々の期待に応えるべく、日々の学修、研究に精進することを強く求めます。あわせて、今後、歯科医療に強く求められる歯科医師・歯科衛生士によるオーラルヘルスチーム活動の担い手として、社会で貢献することを期待しています。

さて、現在、九州歯科大学は、歯科医療人として、患者優先の考え方に立って歯科医療が行える人材の育成を展開しています。本学では、高い倫理観に裏打ちされたヒューマニズムの精神、さらには、自己の利益よりも他者の利益を優先するという利他主義を兼ね備えた歯科医療人養成を重要視した教育を多面的に展開しています。

そのうえで、本日、歯学部に入學した新入生の皆さんにお願いします。諸君は、本学のアドミッションポリシーを十分に理解し、将来歯科医療人として社会に貢献するという強い意志と高い志を持って、本学に入學したと信じています。これから先、九州歯科大学における大学生活において、自らを律した生活を送り、本当の意味でのプロフェッションとして社会に貢献するという強い意志を持ち続け、主体的に日々の学修に励んでください。しかしながら、これまでの初等・中等教育とは異なり、大学での教育では、初めて出会う学問

に戸惑うことも多いかと思えます。さらに、昨年度からの COVID-19 禍中、オンライン教育も導入されていますので、大学での勉強に不安を感じていることもあるかもしれません。本学では、昨年度の教育実績を検証したうえで、今年の授業を丁寧に組み立てていますが、明日からの学習で、不安なことがあれば、遠慮することなく、教職員に相談してください。

次に、大学院に入学する学生諸君に申し上げます。どのような学問領域であっても、それを支えているのは研究です。今後、歯学研究科における大学院生として、修士課程及び博士課程で研究生活を送ることになりますが、「無知は罪悪である。その無知な状態から少しでも逃れて、物事を理解しよう、自然や社会に関連する科学、周囲の人や自分自身を理解しようということが知性なのだ」という言葉をしっかりと胸に刻み込んで、歯科医学に貢献する研究者として、生命科学における高度の研究能力ならびにそれを礎としてオーラルバイオサイエンスに関する豊かな学識を養ってください。その際、自らに課題を課し、その問題解決に自主的の取り組むことを強く望みます。そして、大学院修了時には、口腔保健を通じて国民の健

康増進に貢献し、令和7年を目途に展開される地域包括ケアシステムにおいて優秀な臨床医として、あるいはそれを支える研究者として、医療分野の医療人とともに多職種連携という形で活躍することを強く願っています。

今、申し上げた地域包括ケアシステムでは、医科と歯科が連携して、疾病の重症化予防を通して地域住民の健康長寿の延伸を目指すということが求められます。すでに、本学は、製鐵記念八幡病院、西野病院、新栄会病院、北九州市立八幡病院との間で教育連携協定を結び、そのもとで学部学生の臨床実習を展開しています。このような地域に根差した医科歯科連携教育は、まさに、厚生労働省が推進する「地域包括ケアシステム」の構築に呼応するものです。21世紀の歯科医学を担う学生諸君には、先駆け的な教育を展開する本学で歯学教育を受け、歯科医療界のフロントランナーとして、public dentist, public dental hygienist として、多面的に活躍することを切に願っています。

昨年度は、世界レベルで蔓延した COVID-19 により状況が一変し、世界各国でパンデミックが発生し、ヒトの往来が大きく妨げられました。そのようななか、Think globally, act locally（世界規模で

考え、足元から行動せよ) の考えのもと国際教育連携活動を推進してきた本学としては、COVID-19 の現況を適正にとらえ、毎年行ってきた学生の双方向型海外研修活動と AsiaPacific Conference の運営を模索してきました。

現時点での、COVID-19 の世界規模での感染状況を踏まえ、新年度を迎えるにあたり、海外連携校とオンラインで国際教育連携活動を展開することを最終決定しました。今年度の新入生諸君には、在校生とともに、オンラインによる国際連携プロジェクトに積極的に参加して、学術及び文化交流という視点で、海外の連携校に在籍する学生との交流を楽しんでください。

むすびに、明日から大学で、夢と希望をもって、学習及び研究生活を送る新入生の皆さんに、著名な科学者アインシュタインの名言を紹介します。曰く、「過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望をもつ。大切なことは、何も疑問を持たない状態に陥らないことである。」。本日、この言葉を君たちに贈り、学問に対して常に真摯に、そして、生涯学習を通じて実学を身につけ、患者本位の知識・技術・態度を備えた歯科医療人となるまで、夢に向かって前向に取り組むことを心から念願して、私からの式辞と致します。

令和3年4月5日

九州歯科大学

学長 西原 達次